

令和 5 (2023)年度

運営に関する計画

【中間評価】

学校教育目標

人間尊重の教育を基盤とし、個性を生かし、豊かな人間性を
育て、たくましく生きる力をはぐくむ教育を推進する。

学力の向上

子どもの状況に応じた学力向上に取り組む

道徳心・社会性の育成

豊かな人間性や生きる力を育む

健康・体力の保持増進

健康な生活習慣の確立、食育の推進

特別支援教育の充実

生徒の自立や社会参加に向けての支援

大阪市立墨江丘中学校

令和 5 年 10 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国、府、市が主催となる学力テストにおいて、ここ数年大阪市平均レベルを上下する程度にとどまっている。当然個々の課題もあるが、全体的にはここ 5 年間国語分野における「文書読解力の分野」が低迷している。そのことは、他教科にも少なからず影響していると言わざるを得ない。
また、基礎学力が定着していない層も増えつつあり、一定の実力のある層との 2 極化も進みつつある。ある程度実力のある層に対しても、課題である読解力アップや更なる学力向上を目指し様々な取り組みを展開する。
その一つとして、ICT 機材を活用した、授業の在り方を通して、質の改善と図りわかりやすい授業展開を構築し、民間テストの運用さらには校内テストにおける分析ソフトを導入し、様々な角度から生徒個々の弱点を明確にしながらその補習に努める。
- 普段の生活では見受けられないが、昨年の校内アンケートから規範意識は高いものの、自己肯定感に低い数値が表れる。SDG s の取り組みや人権教育を通して生命の尊さや、自他の生命を尊重させる心を育て、また、社会の一員としてその文化に触れ、地域活動に参加することにより地域の方々のつながりを深めさせ、次世代の街づくり、更には地域防災へとつなげていく。
また、不登校のみならず、何らかの要因により学校へ登校しにくい生徒の個別学習環境(居場所確保)の整備にも着手しながら、既成概念にとらわれない学び方についても模索する。

中期目標

大阪市教育局振興基本計画に準ずる項目について、令和 7 年度末における本市の数値目標を上回る。

【安心・安全な教育の推進】

- ・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- ・校内調査において、不登校生徒の在籍比率を 2.30%以下にする。
- ・校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を 65%以上とする。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

- ・校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 35%以上にする
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も 1.00 以上とする。
- ・大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 56%以上にする。
- ・校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 53.6%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ICT を活用した授業において、全教員でのべ 10000 時間以上とする。
- ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100%とする。
- ・墨江丘タイムを年間 6 回以上、ノー残業 day を年間 10 回以上とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

全市共通目標

- ・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度(85.0%)より増加させる。
- ・校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度(7.4%)より減少させる。
- ・校内調査において、不登校生徒改善の割合を前年度(66.6%)より増加させる。

学校園の年度目標

- ・校内調査における、「学校のルールを守って生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える肯定的回答の割合を前年度(97.9%)より増加させる。
- ・以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。
 - 「クラス・学校は楽しい」の項目について (前年度 85.3%)
 - 「普段から、あいさつを積極的にしている」の項目について (前年度 89.2%)
 - 「清掃活動などの班活動に協力し、校内美化に努めている」の項目について (前年度 92.4%)
 - 「人を傷つけるような言葉や、行動に対して腹が立つ」の項目について (前年度 89.0%)
 - 「人それぞれの〈ちがひ〉を大切にすることを学んでいる」の項目について (前年度 93.6%)

【未来を切り開く学力・体力の向上】

全市共通目標

- ・校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度(32.3%)より増加させる。
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も前年度より増加させる。(2年 前年度 国語 1.0 数学 1.05 3年 前年度 国語 1.01 数学 1.04)
- ・大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度(60.1%)より増加させる。
- ・校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度(男子 57.9% 女子 41.2%)より増加させる。

学校園の年度目標

- ・校内調査において「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」の項目について、肯定的回答を前年度(90.8%)より増加させる。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女ともに合計得点において全国、市平均を上回る。
- ・以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。
 - 「宿題を含め、予習復習など家庭、また学校外での学習をよく行っている」の項目 (前年度 83.9%)
 - 「先生は授業外で補充学習をしてくれる」の項目 (前年度 78.6%)
 - 「現在も、これからも誰かの役に立ちたいと思っている」の項目 (前年度 94.9%)
 - 「自分にもいいところがある」の項目 (前年度 74.7%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標および学校園の年度目標

- ・ICTを活用した授業において、全教員で昨年ののべ時間数(R4:7974 R3:7845 R2:6448 R元:4323)を上回る。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上とする。
- ・墨江丘タイムの日を年間6回(前年より+1)、ノー残業 day を年間9回(前年より+1)以上とする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安心・安全な教育の推進】

【未来を切り開く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市立墨江丘中学校 令和5(2023)年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安心・安全な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度(85.0%)より増加させる。 ・校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度(7.4%)より減少させる。 ・校内調査において、不登校生徒改善の割合を前年度(66.6%)より増加させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査における、「学校のルールを守って生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える肯定的回答の割合を前年度(97.9%)より増加させる。 ・以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。 ○「クラス・学校は楽しい」の項目について(前年度 85.3%) ○「普段から、あいさつを積極的にしている」の項目について(前年度 89.2%) ○「清掃活動などの班活動に協力し、校内美化に努めている」の項目について(前年度 92.4%) ○「人を傷つけるような言葉や、行動に対して腹が立つ」の項目について(前年度 89.0%) ○「人それぞれの〈ちがい〉を大切にすることを学んでいる」の項目について(前年度 93.6%) <p style="text-align: right;">※P.2より転載する</p>	B

年度目標達成に向けた取り組み内容・指標【安心・安全な教育の推進】	進捗状況
<p>取組内容① (1. 安全・安心な教育環境の実現)</p> <p>朝の登校指導(遅刻0の日等)や服装点検等々、学校生活全般にわたっての学校ルール指導強化期間を構築しその徹底を図る。</p> <p style="text-align: right;">(きまりを守る: 生徒指導主事)</p>	B
<p>指標 生活指導強調週間を年間3回以上設定する。</p>	
<p>取組内容② (1. 安全・安心な教育環境の実現)</p> <p>生徒間で起こる「いじめ」や「トラブル」について、確実な情報収集とともに早期解決に向け組織的に対応する。</p> <p style="text-align: right;">(いじめ・暴力行為防止・不登校対策: 生徒指導主事)</p>	B
<p>指標 学期に1回全生徒にアンケートを実施し、それに基づいた教育相談を実施解決にあたる。</p>	
<p>取組内容③ (2. 豊かな心の育成)</p> <p>墨江・清水丘連合会に、生徒の防災リーダーを認定し、さらに、「命」をテーマに、防災の取り組みを各学年で構築していく</p> <p style="text-align: right;">(各学年)</p>	B
<p>指標</p> <p>1年: 防災リーダーを中心に各町会の一斉清掃の実施・地域との防災意識の向上に努める</p> <p>2年: 区役所・消防署・地域共同の防災訓練の構築</p> <p>3年: 救急救命講習初級を実施し、3年全員に資格を獲得させる</p>	

年度目標の達成状況の進捗状況

①(生活指導部)

学期初めに、生活指導強調週間を行うことで、小さな積み重ねと習慣の大切さに気付かせることができた。それと同時に、教育相談を行うことで、担任と生徒一人ひとりの現状の変化、状況を丁寧に話し合うことができた。

②(生活指導部)

5月の「いじめについて考える日」では、生徒会考案のいじめ防止の授業を全学年で行った。その後、「校内いじめアンケート」を実施。アンケート結果、気になる内容については再度、教育相談を行った。

③ 1年

1学期に2回、学年全員を対象に防災や地域貢献に関する集中実践を行った。6月末には防災リーダーを中心に、s各町会ごとに地域清掃を行った。

2年 区役所・消防署・地域共同の防災訓練実施予定。

3年：11月下旬に行う予定である。

後期への改善点

①(生活指導部)

夏休み明けなど、長期休みの後に学校に来づらくなる生徒や素行不良が増加する傾向にある。教育相談や行事を通して、安心・安全な学校づくりに向けて学年やクラスの運営により一層力を入れていく。

②(生活指導部)

いじめや暴力行為等の根絶をめざすために、教職員全員と連携を図り、指導する必要がある。また、いじめの手段が常に変化していくため、時代に応じた対策を模索するとともに情報管理、情報共有、提供してもらえる地域との連携を深めていきたいと思う。

③ 1年

後期も防災教育を実践し、生徒一人ひとりの意識向上に努める。11月末には宮城県から特別講師を招き、東日本大震災の教訓や自然災害についてどう備えるかを学ぶ機会を作る。地域とも合同での防災訓練やボランティア活動を通して、連携を深めていく。

2年

防災リーダーは昨年度より継続して、決まっている。防災学習を通して、「命」の大切さ、防災の心得を学習していく。

3年

現時点で特にありません。

大阪市立墨江丘中学校 令和5(2023)年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度(32.3%)より増加させる。 ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も前年度より増加させる。 (2年 前年度 国語 1.0 数学 1.05 3年 前年度 国語 1.01 数学 1.04) ・大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度(60.1%)より増加させる。 ・校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度(男子 57.9% 女子 41.2%)より増加させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査において「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」の項目について、肯定的回答を前年度(90.8%)より増加させる。 ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女ともに合計得点において全国、市平均を上回る。 ・以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。 <p>○「宿題を含め、予習復習など家庭、また学校外での学習をよく行っている」の項目(前年度 83.9%)</p> <p>○「先生は授業外で補充学習をしてくれる」の項目について(前年度 78.6%)</p> <p>○「現在も、これからも誰かの役に立ちたいと思っている」の項目について(前年度 94.9%)</p> <p>○「自分にもいいところがある」の項目について(前年度 74.7%)</p> <p style="text-align: right;">※P.2より転載する</p>	B

年度目標達成に向けた取り組み内容・指標【未来を切り拓く学力・体力の向上】	進捗状況
<p>取組内容①(4 誰一人取りの残さない学力の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内定期テストにおいて、生徒の受験への積極的な取り組み姿勢を構築するため、テスト前学習補習時間を設定し、学習強化週間とする。 ・よりわかりやすい授業づくりのための研究授業、研究協議・教員研修をおこなう (学力向上・教員研修:教務部) 	B
<p>指標・定期テスト前学習補習時間を年間10時間以上設定し、全教員で指導にあたる。</p>	

・年間1回以上の研究授業・2回以上の相互授業参観・教員の研修を行い、授業を通じて、主体的・対話的深い学びをめざした授業づくりに取り組む。		
年度目標達成に向けた取り組み内容・指標【未来を切り拓く学力・体力の向上】		進捗状況
取組内容②（4 誰一人取りの残さない学力の向上） 定期的に単元の小テストを実施し、合格点に満たない生徒に対しては再テストや補習を行い、合格点に達するように指導する。 （国語）		B
指標 校内国語科アンケートの「国語の授業はわかりやすいですか」の項目について肯定的回答を70パーセント以上にする。		
取組内容③（4 誰一人取りの残さない学力の向上） 毎授業において、計算問題など基本的な問題に関する小テストを実施する。 （数学）		B
指標 中学生チャレンジテストにおいて、「数と式」「文字式」「方程式」の基本的な計算の分野で大阪府の平均を3点上回る。		
取組内容④（4 誰一人取りの残さない学力の向上） 家庭学習を充実させることによって、基礎学力を定着させる。 （英語）		
指標 校内英語科アンケートの「英語の授業はわかりやすいですか」の項目について肯定的回答を75パーセント以上にする。 大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を前年度（60.1%）より増加させる。		
取組内容⑤（5 健やかな体の育成） 各種目、基礎的な運動から、ゲームなどの実践的な運動を実施する。 （保健体育）		B
指標 校内体育科アンケートにおいて「体育の授業は楽しいですか」の肯定的回答を70パーセント以上にする。		
年度目標の達成状況の進捗状況		
①(教務部) 2学期中間テストまで、全てのテストに学習強化週間を設定し、補充学習に取り組むことができた。全教員が研究授業（1回）と相互授業参観（2回）を実施し、主体的・対話的深い学びを目指した授業づくりに取り組んでいる。		
②(国語科) 2学期中間テストまで、各単元の確認小テスト等を定期的実施し、必要に応じて再テストや補習を行っている。		
③(数学科) 2学期中間テストまで、毎時間の小テストや、単元ごとの章末テストを実施している。		
④(英語科) 基礎学力を定着させるために単元テストや小テストを実施している。重要な英単語・英文をペアワークを活用し、習得させている。		
⑤(保健体育科) 陸上競技・球技・水泳など様々な競技を実施している。その中で競技の特徴や成り立ち、基本的なルールなどの知識を習得させている。		
後期への改善点		
①(教務部) 2学期末テスト、学年末テスト時も学習強化週間を設定し、生徒が計画的に学習を行うよう働きかけを続ける。また、11月に研究授業・相互授業参観を予定しており、主体的・対話的で深い学びを		

目指した授業づくりに継続的に取り組む。

②(国語科)

各単元の確認小テストを継続的に実施する。1・2年生はチャレンジテストで大阪府の平均点を超えられるように、3年生は実力テストの平均点を前回より上げられるように取り組む。

③(数学科)

定期テストなどの数値から、苦手範囲をカバーしたり、3年生に関しては、実力テストの平均点をあげられるように取り組む。

④(英語科)

単元テスト・小テストを継続し、理解できていない子どもには、再テスト・補習などを行う。GTEC の体験版などを利用し、大阪市英語力調査の結果に反映させるように取り組んでいく。

⑤(保健体育科)

これからも様々な競技を継続的に実施し、指導していく。

(様式2)

大阪市立墨江丘中学校 令和5(2023)年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標および学校園の年度目標 ・ICTを活用した授業において、全教員で昨年ののべ時間数(R4:7974 R3:7845 R2:6448 R元:4323)を上回る。 ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上とする。 ・墨江丘タイムの日を年間6回(前年より+1)、ノー残業dayを年間9回(前年より+1)以上とする。 <div>※P.2より転載する</div>	A

年度目標達成に向けた取り組み内容・指標【学びを支える教育環境の充実】	進捗状況
取組内容① (6 教育DXの推進) 大型モニター、プロジェクター、タブレット等を活用した、わかりやすい授業の在り方研究、また活用の推進を継続する。 (学力向上・教員研修:教務部)	A
指標 16+6クラスのICT機材を活用した授業時間を前年度以上を目指す。 ICT活用の校内研修会を2回以上行う。	
年度目標の達成状況の進捗状況	
①(教務部) 9月末段階のICT活用授業数が令和元年以降の最高値であった。 Teamsの機能を利用した課題の提示や生徒のタブレットを活用した授業など、教員の授業に役立っている。5月、6月、7月に各1回、墨江丘タイム(授業午前4時間の日)を実施できた。 4～8月、10月はノー残業デーを予定通り実施できた。	
後期への改善点	
①(教務部) 多くの教員がICT機器を活用して授業を行うことができるようになったが、生徒が文房具のようにICT機器を使えるようにはなっていない。特別なツールではなく、日常使いするツールとしての活用していきたい。 教科の授業だけでなく、総合・特活・道徳でもICT機器を活用していきたい。	

令和 5 (2023) 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立墨江丘中学校 学校協議会

1 総括についての評価

--

2 年度目標ごとの評価

年度目標：安心・安全な教育の推進
年度目標：未来を切り開く学力・体力の向上
年度目標：学びを支える教育環境の充実

3 今後の学校運営についての意見

--

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 令和4年度の調査結果の概要（前年度の最終評価より転記）

区分	結果
① 暴力行為の発生件数(件)	1
② いじめの認知件数(件)	5
③ いじめの現在の状況で「解消しているもの」の件数の割合(%)	100%
④ 小・中学校における不登校児童生徒数(人)	39
④高等学校における長期欠席生徒数(人)	
⑤高等学校における中途退学者数(人)	

2 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	生徒間トラブルによる暴力行為が1件あった。これは1年生の1学期に起こった事案であり、新しい環境で新たな友人と折り合いが合わなかったことが原因であった。2、3年生においては、暴力行為はなかった。
② いじめの状況等	昨年度と同じく、家庭状況の変化や生活習慣の確立などを把握するために、学期始めにクラス担任が生徒一人との教育相談の時間をつくり、悩みや相談できる環境をつくっている。集会や、学年集会でもいじめに関する指導を定期的に行っている。年間3回のいじめの実態調査をして、現状把握に努めている。 スマートフォン、インターネットの普及でいじめ問題も見えにくくなることが予測される。生徒、保護者、教職員の人間関係作りが大いに大切になってくると考えている。
③小・中学校における不登校の状況等	マネジメントコーディネーター会議、生指部会、職員会議などで不登校生徒の状況を報告している。近年、不登校の実態も変化しつつあり、在宅での学習、サテライトなどの外部学習も増えてきている。 年2回不登校生徒現況報告会を開催し、生徒が不登校になったきっかけや登校できるようになり改善されたケースなど報告しあい、教職員全体で共通理解の場を設けている。 不登校の生徒の家庭的な背景に迫り、生徒の実態を理解して学校だけでは解決できない事案、学校だけに来るという考えだけではなく、社会のありとあらゆる資源である子ども相談センター、SSWなどの関係諸機関を活用して、少しでも子どもたちの成長の場の提供、生徒に応じた指導ができるように連携を進めていきたいと考えている。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の状況に応じた項目について、それぞれ記入すること